

有明海奥部における貧酸素水塊の発生状況

(独)水産総合研究センター西海区水産研究所
有明海・八代海漁場環境研究センター

湾奥底層の溶存酸素の変動(8月中旬から9月中旬)と今後の見通し

有明海では、8月10～11日に九州西方の東シナ海を北上した台風4号による強風とその後続いた南寄りの強風により湾奥部全域で底層の溶存酸素が上昇しました。しかし、その後、小潮末期から中潮期(8月18～22日)には成層が再び強まって溶存酸素が低下して貧酸素となりました。その後、大潮期の混合により貧酸素は改善しましたが、9月上旬の小潮期～中潮期(9月3～6日)には再び湾奥で溶存酸素が低下し、貧酸素化しました。しかし、9月7日に対馬海峡を北上した台風9号の南寄りの風による鉛直混合により貧酸素は解消しました。現在は大潮期(9月23～26日)にあたり、湾奥全域では鉛直混合により底層の溶存酸素が改善しています。

9月22日からの北風の影響もあり、今後鉛直混合が進むと考えられ、次の小潮期(9月30～10月3日頃)に湾奥で溶存酸素が大きく低下することはないと思われます。

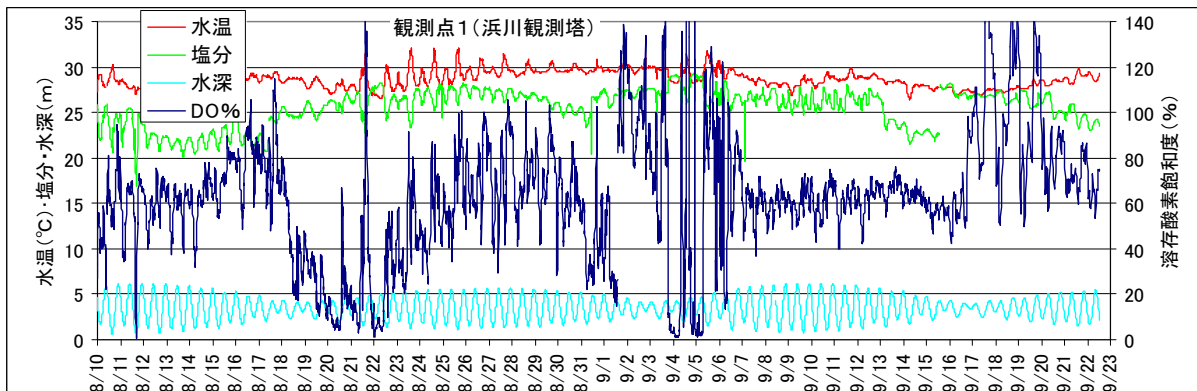


図1a. 有明海奥部底層の溶存酸素等の変動(浜川観測塔)

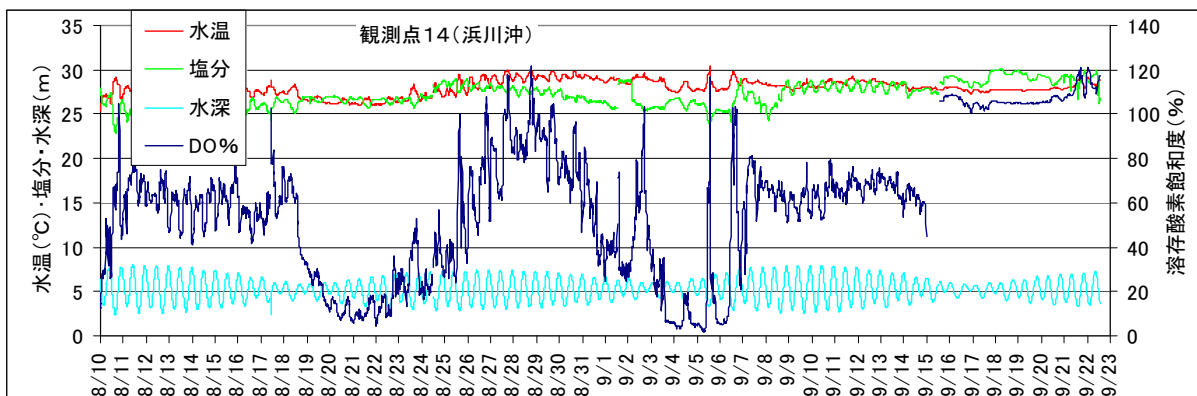


図1b. 有明海奥部底層の溶存酸素等の変動(浜川沖)

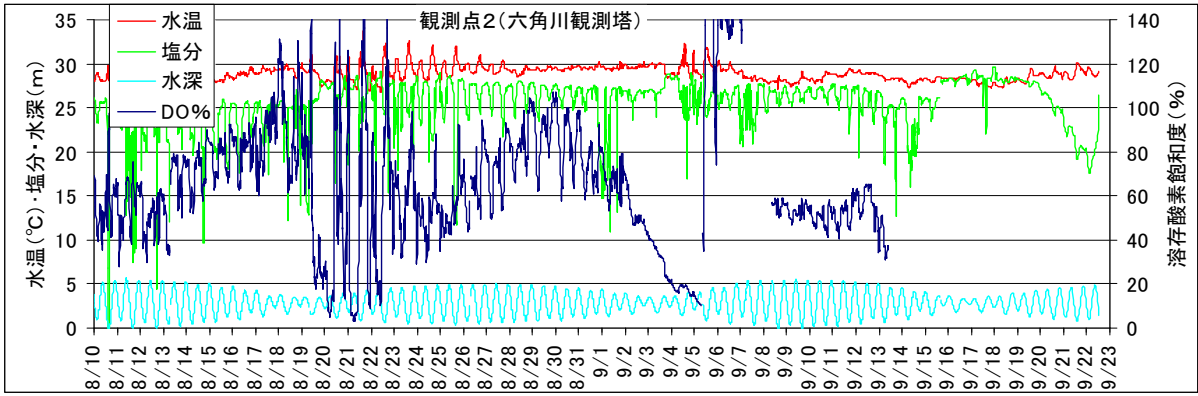


図2a. 有明海奥部底層の溶存酸素等の変動(六角川観測塔)

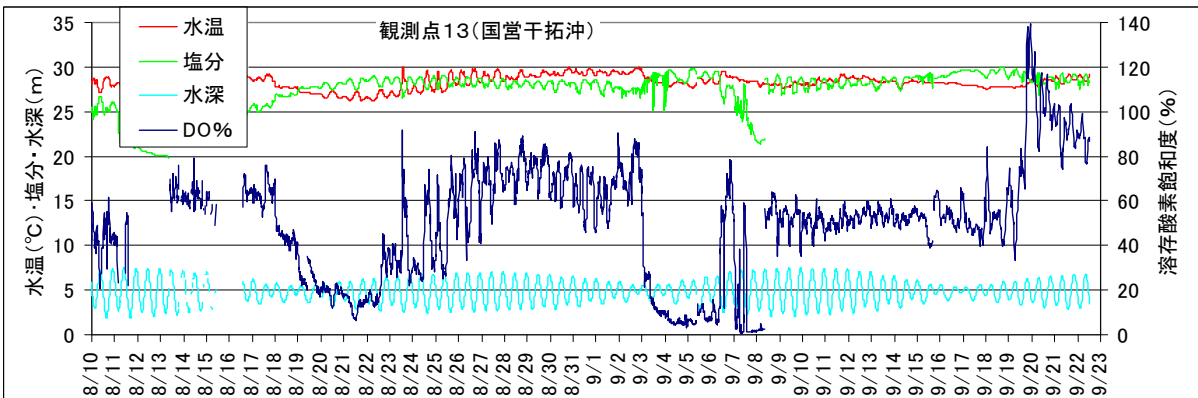


図2b. 有明海奥部底層の溶存酸素等の変動(国営干拓沖)

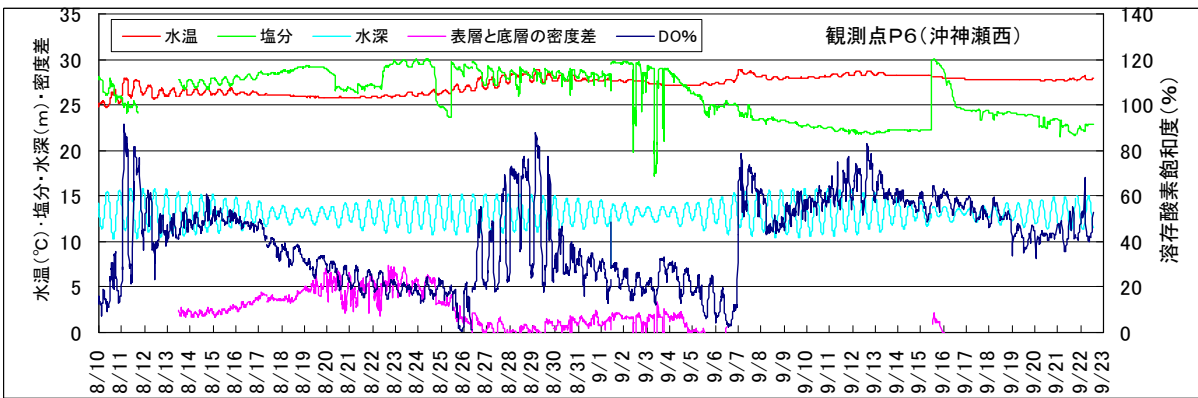


図2c. 有明海奥部底層の溶存酸素等の変動(沖神瀬西)

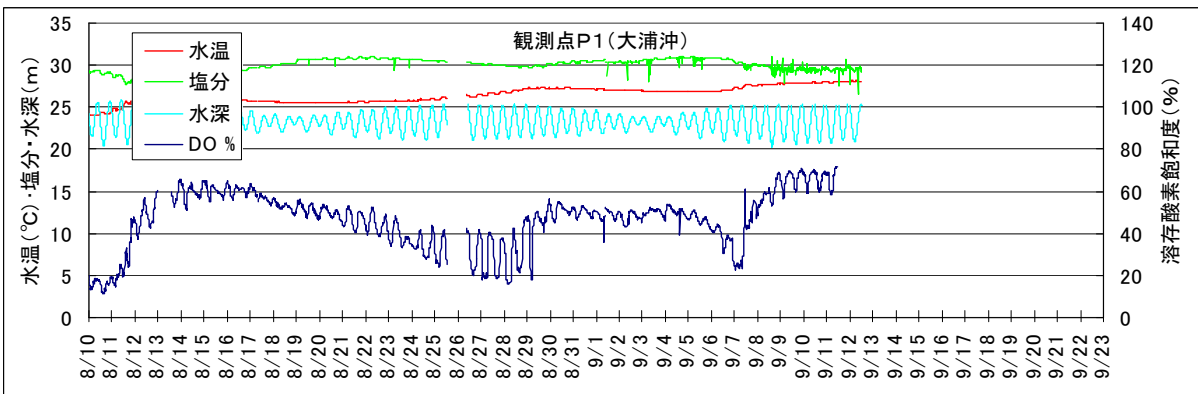


図2d. 有明海奥部底層の溶存酸素等の変動(大浦沖)

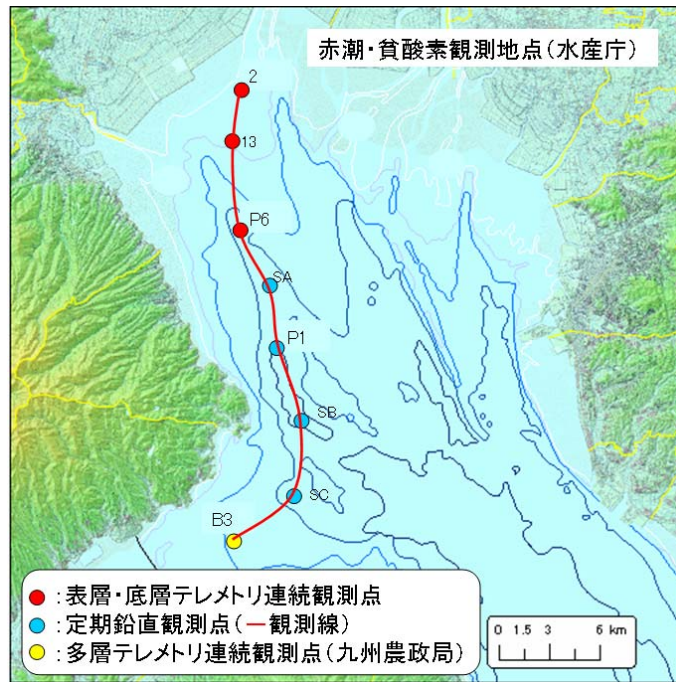


図3. 水産庁事業による湾奥の断面観測地点

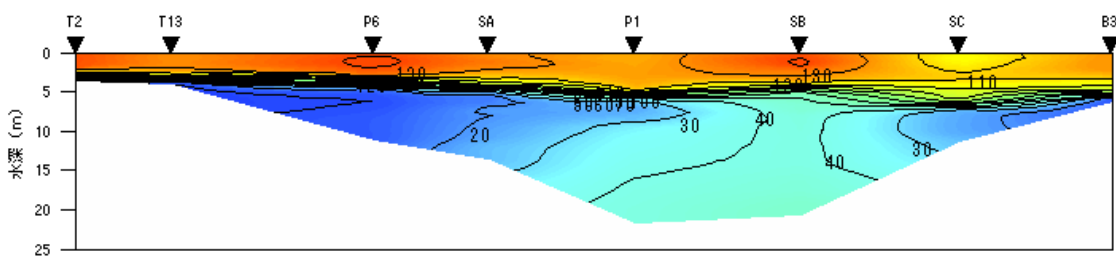


図4a. 湾奥部西側断面(図3の赤線)の水質分布(溶存酸素飽和度、%) (2010年9月5日)

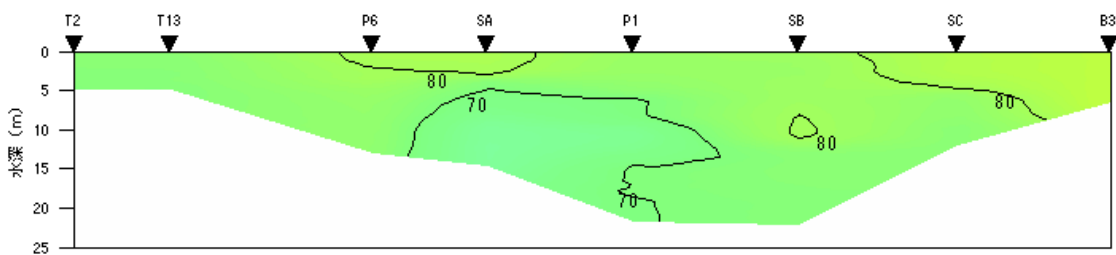


図4b. 湾奥部西側断面の水質分布(溶存酸素飽和度、%) (2010年9月12日)

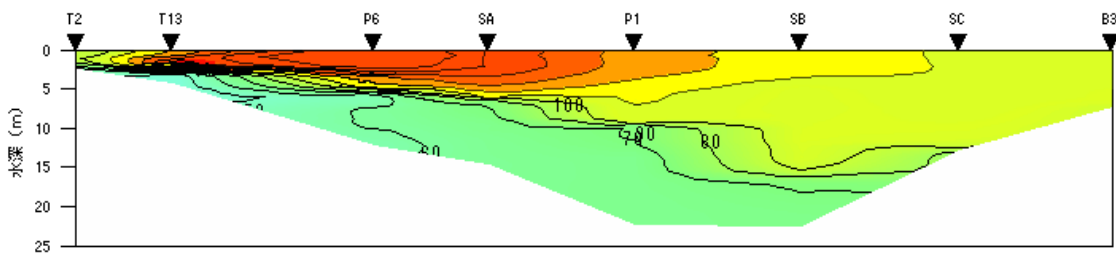


図4b. 湾奥部西側断面の水質分布(溶存酸素飽和度、%) (2010年9月16日)

